

宇治市 政

宇治市機関
発行所
宇治市役所・市長公室

大地の下崩え 市財政を安定の軌道に

三十年度新予算：一億八千八百萬圓

宇治市三月市会は去る十一日開会以来、十八日、二十四日、三十日と三回開会し、新年度予算を初め市職員定数に關する条例、市議員定数、出度所廢止条例等、財政再建に關連する幾多の条例を可決し、理職任期限最後の市政に輝やかき業績をのこした。

池本市長の真面目を見るべき新年度予算は、当面の赤字克服、しほらざるを得ない事情から、緊縮予算になつたのであるが、それはあくまで得びんが為の圧縮であり、大地の底に伝わる下崩えの喜びを感ずると市長自ら云う如く、この市財政は安定の一歩を進めたもので、その実現には結局市議員の協力が期待されることである。

二十九年度予算が、昨年十一月池本市長新任以来、整備に次ぐ整備を重ねて来たに引続き、三十年度予算こそ、その真面目を表現するものとして注目せられていたが、その予算案が、三月十四日か休会中の市議会で送達せられ、十八日再会市会に附議、市議外各種委員報酬減額という稀に見る良い意味の議案側自発的修正の外、原案通り可決成立を見た。概要左の通りである。

第一、予算款項

(単位千円)

歳入

市税 一三四、六三九
地方交付税 五〇〇
財産収入 二五八
分擔金、負擔金 一、二五五
使用料、手数料 六、二七七
國庫支出金 四二、二九一
府支出金 二、五八六
雑収入 六五二
合計 一八八、四八三

前年度当初 一八八、四八三
予算比 一〇〇、〇〇〇

歳出

議会費 四、八六五
市役所費 四三、一二六

第二、予算主要費目の前年度(当初予算)比較増減

前年度額は計上に安定性を欠き、又中間の更正で増減も多く、ここに中間年度増減の比較は、大した価値を持たない。又土木費、教育費の如き経常臨時の区別を殺さない限り、災害、新建築の有無で増減常ならぬものも同様である。依つてこれらのものを除き、比較的対照

市	前年度	本年度	増減	備考
市税	114,506	134,639	20,132	成績向上
地方交付税	12,000	500	△11,500	前年度山林、建物売却計上
財産収入	20,775	258	△20,517	前年度山林、建物売却計上
市債	54,200	0	△54,200	(赤字債)

市	前年度	本年度	増減	備考
市議会費	6,279	4,805	△1,474	市議六名減
市役所費	45,144	43,126	△2,017	前年度計上少
社会労働費	28,674	43,423	14,749	
保健衛生費	4,631	5,349	718	内、災害23,172
産業経済費	36,271	9,358	△26,912	内、井池1,500
観光費	5,770	2,185	△3,585	内、本年度償還13口
公債償還費	5,561	13,408	7,947	内、赤字償還15,000
諸支出金	1,911	17,194	15,283	

第三、予算の特事項

一、本年度で赤字解消千五百萬圓を確保した。
二、交際費、食糧費等を大いに圧縮し、特に市財政の大重点だった各種各方面の負擔金補助金は種目百八、九十種にも及んだのを統合し、且額を二千二百萬圓から約七百五十萬圓に圧縮した。
三、人員費の減
約一千萬圓
四、四出張所の全廃
五、市債元利償還の
前年度比増
七百九十三萬七千円
これを赤字消千五百萬圓に加え、二、三千三百萬圓の黒字とも云える。
六、研修費は従来の期末手当とする如き不明朗を排し、本質に反してこの年度の研修用とする。



志津川陸橋と渡り初め
(昨年十一月工費800万円で着工、延長73メートル高さ7メートルの鋼板桁橋として完成した。渡り初めの三夫婦は横島三軒家の佐原新七さん一家 30年3月20日)

七、苦しい中にも計上した特殊及新規事業の主なるもの
東宇治中建築(緑統) 七、一〇九千
大久保小教室増築 三、〇〇〇千
笠取小講堂工事 三、〇〇〇千
開地区道改修費 三、〇〇〇千
成年及青少年教育費 二、二九九千
消防隊員六名増 二、二九九千
同貯水所二ヶ所 四、〇〇〇千
都計実費 三、〇〇〇千
防炎ダム調査費 五、〇〇〇千
職員食堂改善自転車置場 二、七〇〇千
市営結婚 二、七〇〇千
戦没者墓移転 二、五〇〇千
公衆茶室新築 二、〇〇〇千
歳入上の措置 三、〇〇〇千
一、固定資産税課率 百分の一
二、手数料中の一部一件五十円を三十円に、三十円を二十円に引下
三、幼稚園保育料 三百円を四百円に引上
四、道路河川敷古用品規定制定

人	件	費	基	予	上	純	C
	必	要	準	算	同	額	A
	甲	乙	(A)	(C)	(C)		
人員費	54,928	57,014	57,014	57,014	104		
必要費	5,548	10,896	10,896	10,896	196		
同 乙	15,132	59,639	29,667	196			
事業及諸費	14,039	23,675	17,708	125			
需用費	14,547	18,233	9,296	64			

一、基準額、全国並の比率額と考えればよ
二、純市費、上欄の予算額より、その費目に付ての受入補助を引いたもの
三、必要費甲、旅費、賃金、交際費、負擔金等
同乙、市債、元利償還、借入金、利子、生活保護費等
四、表に付て、人員費は今年では、必要経費の乙など無
いほど良いものが、全国の二倍近くに、これが当市の大痛手、

その償込等が需用費にかゝつて来ていることに注意
一、予算額の経常臨時別
歳入部 一八八、四五八千円
臨時部 一〇、〇〇〇千円
臨時部 一〇、〇〇〇千円
臨時部 一八八、四五八千円
臨時部 一五五、六六五千円
臨時部 三二、九九三千円
この分け方は、未だ正確でないが大体は判る。これに依ると、臨時部は超過額で、本市が本来は健全な臨時部で喰われていたことが判る。

本来予算共計に経常臨時部の別があるのが当然である。それが戦後に全国一様に無くして、これは政府、議会が悪いのである。当市で今度の区別編成をやるつもりだったが、手が廻らず、何れ次からは区別する考えである。
○市算我関 ○「然り氷に閉ざれた曠野を眺めるの悲しみを感ぜし、一面、大地の底に伝わる下崩

第四、市会の自発的
報酬引下げ修正
市議会は市財政の現状に鑑み、三十日の最終日に於て議員自身及之に就て各種委員の報酬の自発的引下げ修正を行つた。その引下額及之に伴う事業費への振向等左の通りである。
市議会費 六六六、〇〇〇円
その他の各委員費 六六六、〇〇〇円
計 一、三三二、二〇〇円

予算の内容
編成予算の内容のうち、歳入これは極力増収に努める。第一、増収は増収はしないが納得の極力増加を期す。第一、税外収入の増加はかかる。古用現行を執行一方、手数料の一部引下げも行う。次に歳出面の一部引下げ、これに對して第一、まづ消耗、需用、諸費、交際費等内部経費の圧縮に努む。これが市財政の重荷となる。事業費と人員費はできるだけ重し、苦しい中にも多少、息吹きの新事業も考え附けた。
正面に於て今の段階では遺憾ながら、当初目標した赤字解消二千萬圓内の線が破れたが、尚千五百萬圓内外の返還で
重荷を加える

次に予算案につき大綱を述べたい。現在の市の赤字、表面は七千萬元であるが、外に潜在的な赤字が三千二百三十萬元、これは國庫負擔金、市債の前借費用等を指すものである。これを合せて約一億二千三百三十萬元、この身代りになつている短期の借入金金が五千七百萬元である。
これに對して予算編成の方針は第一、この赤字を四年で解消する。第二、三十年度をその第一年とする。第三、その為の赤字解消二千萬元を三十年度に解消する。第三、如何に苦しい中にも出たためではなく良心に苦しい中にも出たためで、予算案であることを御承知願いたい。(文責 弘報記者)

慘怛たる晝夜の苦心

三十年度豫算の生れるまで……

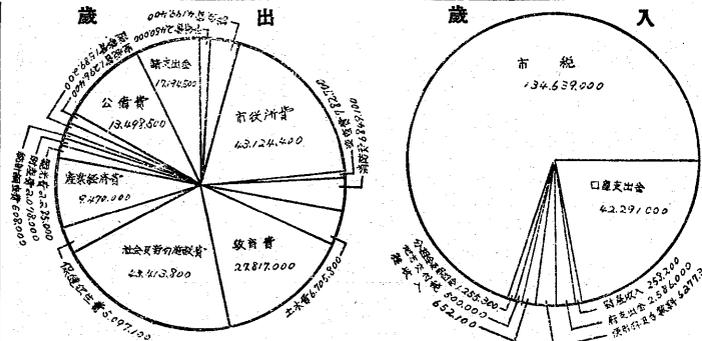
(一) 基本方針

(豫め池本市長よりの指示)

- 一、赤字は表面七〇、〇〇〇千円(豫め池本市長よりの指示)
- 二、三十年度解消即ち黒字目標を約二千萬元とする。
- 三、正確な全年度予算を編成する
- 四、歳入は増税は行わず、然し納得徴税は励行すると共に、税外収入の増加を計る。
- 五、歳出では、消耗、需要、交際、諸費に十分の圧縮を加え、補助負擔には漸消的メスを加に当つた。

(二) 編成の苦行と最後の結成

心せわしく愈々編成に手を染めたのが、二月二十日、何しろ宇治市再生成るから成らぬか、その開門第一年として諸員みな非常な緊張を以て臨んだ。処が時を同うして松井総務課長が病氣長欠を余儀無くせられたので、俄かに中沢秘書課長が代行し、之に木下会計課長と主として二人中沢は過去の事務費、諸費に十分の圧縮を加え、経験、木下は緻密正確な計算で事務補助負擔には漸消的メスを加に当つた。



(市会で予算説明を行つ市長)

市役所新機構
市長 公室
商工観光課等

市役所新機構
市長 公室
商工観光課等

水道起債
千八百万円に変更

四出張所廢止
四月一日実施

出張所廢止による
配給事務取扱は

早のぎ矢つ
財政再建四ヶ年案成る

市当局は二十九年度末期の予算修正、次で三十年度予算の画期的編成に引きつぎ、人員整理の業務と併用して、断乎この財政再建年次案に武歩を進め、あつたが、遂に去月二十九日最終決定を終え、翌三十日の市会最終決議に附議し満場一致の議決を見た。尙本案作成に総務課長本主席の功は大きかつた。

廳員の研修
事務研究派遣等の奨励

歳入出と赤字解消計算
各年度決算額

出出張所廢止
四月一日実施

再建年度中の施行事業

三十年度 一般會計豫算
第一回追加更正

市役所交際費等		(単位千円)	
元年度	予算	歩合	
未収入	100	歩合	
市役所	100	歩合	
計	100	歩合	

市税徴収状況
昭和30年3月末日現在(単位千円)

税目	調定額	収入額	未収入額	収入歩合
市民税	37,332	29,148	8,184	78%
個人住民税	22,276	15,472	6,804	69%
法人住民税	15,056	13,676	1,380	91%
固定資産税	74,531	61,939	12,592	83%
個人法	29,533	17,822	11,711	60%
法人法	44,998	44,117	881	98%
自動車税	1,364	943	421	69%
ガソリン税	16,626	16,571	55	100%
たばこ消費税	8,368	8,368	0	100%
その他	16	16	0	100%
計	138,237	116,985	21,252	85%
滞納繰越分	31,654	11,828	19,826	37%
合計	169,891	128,813	41,078	76%

府會は四月二十三日
直接地方住民の生活を守る、府會と市会議員の改選がいよいよせまつてきた。

再建基本方針
一、解消赤字は九一、四五二千円

再建基本方針
二、再建は、出来る限り財政規模の削減、収入増加に依つてする

再建基本方針
三、歳出抑制措置

再建基本方針
四、再建年度中の施行事業

再建基本方針
五、再建年度中の施行事業

再建基本方針
六、再建年度中の施行事業

宇治市政だより

宇治市政だより

第百回放送



宇治百話 (その1)

蘆花の『不如歸』と 宇治描寫の一節

宇治人にして本當に宇治を知っている人が幾人あるか。本欄は専門的でない、宇治人として、宇治に付きこ...

古文学にあらわれた宇治は、古普及して、今さらその筋書をくは萬葉などから、有名な源氏物語...

そこをくると明治この方のものは読むことに苦勞はないが、案外に珍重がされないと言ひ恨み...

徳富芦花の不如歸、これは芦花自身も言つておぼろげに、お坊ちゃん小説であるが、これが明治三...

「黄葉」を出れば日本の茶摘かな。茶摘の盛季は風過ぎたれど、風は時々焙煎の香を送りて、此処其処...

は麦の穂末を渡る白帆にあらわれ、彼方に屋根のみ見える村里より、打仰く空には薄雲に焦れし雲浮々と漂ひたれり。

宇治市と観光文化 (其の三)



すべて事業は、企画とか計画とかに依つて運営されることは、御承知の通りである。

第一期に、客の種別を分類し、第二期の終末に於て客の最終別を識する事である。

私が青年学級のことで筆取を訪問した。彼等は、難談にあつては、徐ろに歩み初め、云々迄も今更此は片岡中将の一行なり。

公民館めぐり 青年の力で建つた 筆取公民館。公民館は、青年学級のことで筆取を訪問した。彼等は、難談にあつては、徐ろに歩み初め、云々迄も今更此は片岡中将の一行なり。

紅葉の秋として人に知られていない地は多いが、其の内接近郷の高らば第一は企畫で、この企畫され...

紅葉の秋として人に知られていない地は多いが、其の内接近郷の高らば第一は企畫で、この企畫され...

市民文化の集い賑わう 写真展の一部 (三月五六日) 人間一人々々の力は弱いものだが、それが一つの目的に結集される...

市民文化の集い賑わう 写真展の一部 (三月五六日) 人間一人々々の力は弱いものだが、それが一つの目的に結集される...

市民文藝 武内つた 夜の町をジゼルカーの過ぎゆくをいつか来らむと子は吾に云う...

併句 前田富雄 春の雨欄干につとよりかかり春の山に思ひくく樹を植う...

市民文藝 武内つた 夜の町をジゼルカーの過ぎゆくをいつか来らむと子は吾に云う...

企業物の物も「生きた企畫」であり、しかも宏大にして、観光客交流の大きな心持にて運営するが、最上かと考へるのである。

新年予算も、例の赤字克服を先決として、市長の事業抱負は今後に期待せねばならぬが、市が財政安定化への第一歩をふみ出したことは市自身のため、市政の主人たる市民諸兄姉の待望に沿うものと...

市一部の機構と人員を交配して、市行政に徹することになつた。折角の成果を期待するとともに、市民の声を聞き、市民の声の上る宇治市を育て、随時、随所に四月の新風をおくられんことをねがひたい。